

遠洋かつお一本釣漁業プロジェクト(焼津②)

(第一二三佐賀明神丸、224トン)

もうかる漁業創設支援事業検証結果報告書(改革漁船型、既存船活用型)

事業実施者: 日本かつお・まぐろ漁業協同組合 実証期間: 平成25年3月12日～平成30年3月11日(5年間)

1. 事業の概要:

新たに中型漁船(224トン)を導入し、活餌槽へのインバーターの設置、見える化装置の導入及び走行時の燃費低減努力による燃油消費量の削減を図るとともに近海漁場(一部遠洋漁場を含む)で一隻の漁船により生鮮と冷凍品を製造した。脱血装置の設置、B-1の製造を行うとともに製品の知名度の向上(製品を外食・量販店へPR)を図ることにより生産性の向上を図った。

2. 実証項目

生産に関する事項

燃油消費量の削減に関する事項

A～B 燃料消費の見える化を活用して省エネ航行を行う。活餌用冷却水系統ポンプ並びにスクルー冷凍機にインバーターを設置し燃油の消費を抑える。
従来値2,134.10KL
計画値1,885.54KL

漁獲物の一部をB-1製造することによる生産性向上

C 冷凍設備を利用して、B-1を製造
水揚げ金増加額:
＜1年目＞ 2,345千円(35t)
＜2年目以降＞ 6,700千円(100t)

S-1製造による付加価値向上

D 血抜き装置を設備し、S-1製品を製造
水揚げ金増加額:
＜1年目＞ 640千円(10t)
＜2年目以降＞ 1,280千円(20t)

流通に関する事項

焼津水産ブランドの活用

E 焼津水産ブランドを活用して、B-1製品の知名度向上と販路拡大を図る。

S-1製品の販路開拓

F S-1製品について、消費地市場等と連携をとりブランド化に取り組む。

3. 実証結果

燃油消費モニターを活用して省エネ運航を行い、活餌用冷却水系統のポンプ及びスクルー冷凍機にインバーターを設置して実証した結果、5年平均の燃油消費量は1,812.3klと従来値2,134.1kl並びに計画値1,885.54KLを下回る結果となった。
この2つの取組は、省エネに効果があると考えられる。

計画は、根拠地から漁場まで4日以上要する遠方漁場でB-1を製造することとしたが、5年間は最長でも3日間だった。製造数量は5年平均で、15.8トンとなった。水揚げ金増加額は、5年平均で、1,415千円の増加額であり、計画を大きく下回った。

S-1製造は、鮮度が良く脂乗りの良い2.5kg以上のサイズのカツオで行う予定であった。当該事業年度の5年間は、東沖漁場としては3日以上要する遠方に漁場が形成され、根拠地から2日以内の漁場で脂乗りが良く2.5kg以上のサイズのカツオの漁獲が少なかったため、製造数量は5年平均で、0.8トンとなり、水揚げ金額の増加額は5年平均で、216千円の増加額であり、計画を大きく下回った。

シーフードショーにおいて、B-1カツオの鮮度の良さをPRし、数件の販路先を確保した。

製造数量は少なかった。製造した年には外食店1店へ紹介したが、製造数量が少なかったためブランド化は図れなかった。

4. 収入、経費、償却前利益及びその計画との差異・その理由

【収入】実証の5年間は、全国的な不漁が影響して、水揚げ数量及び水揚げ金額共に、計画値を大きく下回った。

【経費】計画経費総額449,271千円に対し、5年平均の実績額は409,168千円と40,103千円の減少となった。人件費及び販売経費が水揚げ高減少により、大きく減少したことが要因である。

【償却前利益】5年間の平均償却前利益は△74百万円で計画34百万円を大きく下回った。要因は、不漁により水揚げ金額が減少したことによるものと考ええる。

5. 収益性回復の評価

計画：本計画実施により、漁業の収益性の回復が図られ、計画5年後に償却前利益の累計は164,671千円が確保される。

実績：5年間の償却前利益累計は、▲369,979千円となり、計画における償却前利益累計には達しなかった。

6. 特記事項

省エネは計画以上、B-1製造、S-1製造は計画より減少したが、取り組みは概ね実施した。しかしながら、全国的に5年間とも不漁で収益が上がりなかった。

事業実施者：日本かつお・まぐろ漁業協同組合(TEL.03-5646-2380)（第137回中央協議会で確認された。）